

空から届く命の支え

島根大学教育学部附属義務教育学校 9年 武田 紫愛

パタパタパタパタ…その日、サニタリーで愛犬の洗濯物を干していると、家の上をものすごい音が通りすぎた。驚いてベランダに出てみると、低い位置をヘリコプターが飛んで行った。よく見ると、それはドクターヘリだった。数日後、友だちからこんな話を聞いた。お父さんが海で釣りをしていた時、崖から落ちて大けがをしたらしい。道が悪く救急車ではたどり着けなかったそうだ。そこで出動したのが一あの日見たドクターヘリだった。お父さんはすぐに病院に運ばれ、何ヶ月も入院とリハビリをして、今では元気に働いているそうだ。その話を聞いたとき、私はふと、あの日の音を思い出した。あの音は、「命をつなぐ音」だったのかもしれない。

ドクターヘリには、お医者さんと看護師さんが乗っていて、現場で治療ができる。遠い場所でもすぐに助けに行ける。でも、あんなすごいヘリを動かすのにどれくらいお金がかかるんだろう？誰がその費用を支えているんだろう？あとで調べてみると、一台あたり一年間の維持費に約二億五千万円、一回の出動でも約四六万円もかかると知って驚いた。しかも、そのお金はけがをした人が払うのではなく、国や県などの税金でまかなわれているという。さらに調べてみると、世界の国々ではこの仕組みが少し違う。例えばアメリカでは、ドクターヘリを一度使うだけで百万円以上の請求が来ることがあり、保険がなければ全額を自分で払わなければならない。ドイツでは保険でカバーされることが多いけど、未加入だと高額な自己負担になるらしい。イギリスでは、なんと寄付やチャリティーによって運営されているそうだ。それに比べ、日本では病気やけがをした人が費用を気にせず助けを呼べる。これって、とてもすごいことなんだろうと思った。その時、私は初めて「税金ってなんだろう」と考えるようになった。もし税金がなかったら…。そんなに高いお金、自分で払えない人も大勢いると思う。ドクターヘリを使えない人が出てきたら、それは「命の差」になってしまう。そんな世の中は、こわい。私はそれまで、税金にはあまり良いイメージがなかった。「高い」「取られるだけ」と思っていた。だけど、周りを見ても、学校の校舎、教科書、公園、道路、ごみ収集車、消防車、病院、そしてドクターヘリ…。いつもは気づかないけど、たくさんの大事なものが税金で成り立っている。

税金は「取られるお金」なんかじゃない。みんなで生きていくための、「見えないチカラ」なんだろうと思う。

あのとき、空から聞こえた音が、私の考えを変えてくれた。私もいつか、大人になって税金を納めるようになったら、その一部が誰かの命をつなぐために使われるのかもしれない。そう思うと、少しだけ誇らしい気持ちになった。